

授業概要

保育実習Ⅰにおける過去の実践を検討・評価・改善する一連の流れの中で、保育士に必要な知識・実践知を再確認するとともに、保育実習Ⅲで求められるより高い専門性を養って行く。具体的には、1.子どもの発達に応じた保育上の配慮に関する講義、2.保育実習Ⅰの実習記録・指導案の評価と改善に関する演習、3.改善された指導案に基づいた模擬保育、4.現場の保育者との交流等を通じて、今までの学びの集大成として保育所での最後の実習を実りあるものとし、より専門性の高い保育士となるための一助とする。

授業計画

第 1 回	ガイダンス(保育実習Ⅰと保育実習Ⅲの違いについて)
第 2 回	保育実習Ⅰにおける成果評価と課題発見
第 3 回	保育実習Ⅰにおける実習日誌の見直しと改善・1（子どもの活動・姿）
第 4 回	保育実習Ⅰにおける実習日誌の見直しと改善・2（保育者の援助・配慮）
第 5 回	保育実習Ⅰにおける指導案の見直しと改善
第 6 回	模擬保育にむけた指導案作成(グループワーク)
第 7 回	模擬保育実施・1（製作活動等）
第 8 回	模擬保育実施・2（運動遊び等）
第 9 回	保育所長の講演（予定）
第 10 回	模擬保育の結果評価・考察と指導案の改善
第 11 回	実習日誌の配布と実習開始までに必要な手続きの確認(健康診断書・細菌検査・オリエンテーション時の対応等)
第 12 回	子どもの発達に応じた保育のあり方・1（保育課程、年間指導計画、月案、週案、日案）
第 13 回	子どもの発達に応じた保育のあり方・2（冬の保育の配慮事項と小学校への接続）
第 14 回	保育実習Ⅲ直前指導（責任実習へ向けて）
第 15 回	保育実習Ⅲ最終直前指導(自己課題の設定、園への提出物やその他準備物など)
第 16 回	保育実習Ⅲ事後指導(自己評価/報告書作成/グループディスカッション)

※外部講師を招聘して講演会を聴講する場合もあり得る。計画表等は授業内にて周知する。

到達目標

過去の実習での課題を踏まえ、保育実習Ⅲでの実践に発展的に繋げて行くために、既存の知識を確認しながら模擬保育等を通じて保育実践知を涵養する。

履修上の注意

- ・保育実習Ⅲ(保育所)を履修予定の学生は必修である。
- ・保育実習に準ずるものとして、遅刻・欠席等は原則として一切認められない。
- ・書類・課題等の提出は必ず期日を守ること。
- ・実習を挟んだ授業展開のため、開講スケジュールは変則的になる場合がある。授業内および掲示板での告知を各自で確認すること。

予習・復習

予習として配布資料の予告された箇所を授業前までに通読すること。
当該テーマのより良い理解のために、授業内で紹介する参考文献や資料による復習をすること。

評価方法

授業内への取り組みの姿勢(20%)、提出物や発表の内容等(80%)から総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書名：保育所保育指針（平成 29 年告示）
- ・著者名：厚生労働省 著
- ・出版社名：フレーベル館 編
- ・出版年 (ISBN)：9784577814239